

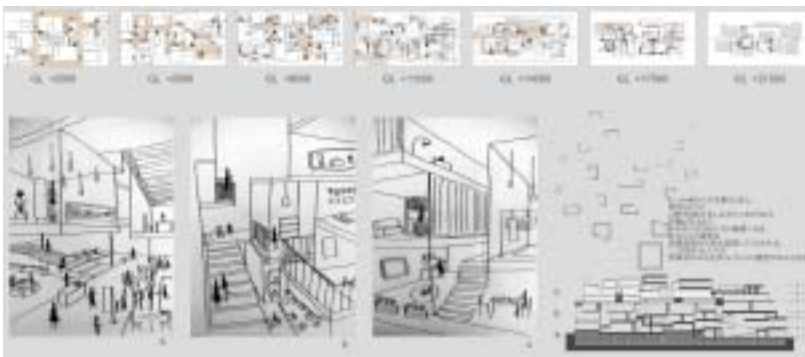
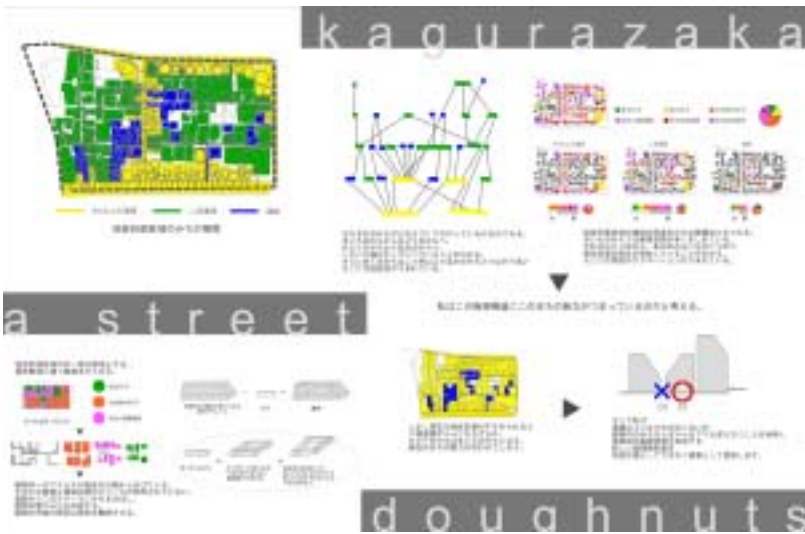


# doughnuts

Kagurazaka Project in the Road

岡治 亜友美 (おかじ あゆみ)

千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



戦前・戦後すぐに建てられた多くの建物が老朽化による建替時期を迎えていて、それらは超高層マンションとして再開発されることが多い。路地で有名な神楽坂の街にも再開発の手は伸びている。2007年に神楽坂の街並を守ろうとする住民の意向をうけて、神楽坂3、4、5丁目地区において地区計画が制定されている。しかしこの地区計画が進行されると、現在の街の良さであるグラデーションのある街路構造は失われてしまう。建物内の道ならば4m以下でも成り立つことを利用し、大きさ・太さの異なるわかち型の道を積層させることで、神楽坂の街路構造を地区計画としてではなく建築として実現させることを提案する。ここを訪れる人は、神楽坂のみちを歩くように建物内のみちを歩く。



【講評】 この作品は、神楽坂界隈のまちの魅力を継承する実践的再開発の提案である。作者は神楽坂界隈の街としての特性を丹念に調べ上げ、その道路種別と構成・建物用途との関連から、法定外道路で繋がる回遊性こそがこの街の魅力であると結論づける。しかし、再開発にあたり法的に認められないため、建物内通路で再現しよ

うと試みる。その通路は例えばエッシャーの無限階段を連想させ、建物用途と連動しながら上方に向け変容し続ける。まさに、現在の神楽坂界隈のまちを立体的に更に魅力的に再現した内容である。これからのテーマとしては、ひとつの建物に留まらず、街全体を有機的に結ぶ多元的な繋がりに挑んでもらいたい。(審査員：古里 正)